

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人藤沢市社会福祉協議会

目 次

重点目標	・・・・・・・・	1～11
実施事業		
1. 地域福祉推進事業	・・・・・・・・	14
2. 地域の縁側事業（市受託事業）	・・・・・・・・	17
3. 社会福祉法人や民間企業等との地域貢献事業	・・・・・・・・	18
4. 援護事業	・・・・・・・・	21
5. 福祉人材養成事業	・・・・・・・・	23
6. 助成事業	・・・・・・・・	24
7. ボランティア活動推進事業	・・・・・・・・	25
8. 資金貸付事業	・・・・・・・・	32
9. 障がい福祉事業	・・・・・・・・	34
10. 包括的な相談支援・社会的孤立等支援事業	・・・・・・・・	35
11. 生活支援コーディネーター（第1・2層）事業（市受託事業）	・・・・・・・・	40
12. あんしんセンター事業（権利擁護事業）	・・・・・・・・	41
13. 在宅福祉事業	・・・・・・・・	47
14. 老人福祉センター運営事業（指定管理事業）	・・・・・・・・	50
15. 居宅介護等事業	・・・・・・・・	51
16. 障がい者総合支援事業	・・・・・・・・	52
17. 災害活動関連事業	・・・・・・・・	53
18. 会の運営	・・・・・・・・	53
19. その他の実績	・・・・・・・・	55
20. 団体業務	・・・・・・・・	56

令和6年度事業報告

令和6年度事業に取り組むにあたり、2025年問題に代表される高齢社会の進展、長寿社会への生活環境の整備、子育て中の方や障がいのある方、生活困窮や社会的孤立など生きづらさを抱えた方を支える仕組み、担い手の確保、災害への備えなど、全ての人が支えあい、自分らしく活躍できる地域づくりが重要となっていると捉え、また、人と人、地域社会とのつながりの大切さを再認識した新型コロナウイルス感染症の教訓を地域活動へ活かしていくこと、さらには、この間の社会福祉法改正、こども基本法、孤独・孤立対策推進法などの法制化を踏まえることとしました。

こうした中で、藤沢市社会福祉協議会（市社協）は、「藤沢市地域福祉計画2026」を実践するための指針となる「第4次地域福祉活動計画」の具体化に向けて、地域で暮らす住民をはじめ自治会・町内会や地区社会福祉協議会等の地域活動団体、民生委員児童委員、社会福祉法人やNPO法人等の専門機関、行政機関の皆さんと一体となって地域生活課題の解決に向けて取り組みを進めてきました。

第4次藤沢市地域福祉活動計画の基本目標と施策の方向性

「一人ひとりが主役 共に支えあい安心して暮らせるまち ふじさわ」

基本目標1 地域に関心を持ち、行動できる人材づくり

施策の
方向性

- (1) 誰一人取り残さない地域づくりに向けた周知・啓発
- (2) 地域福祉活動の普及・啓発
- (3) 地域福祉の担い手の育成・参加促進

基本目標2 お互いが見守り、支えあい、つながる地域づくり

施策の
方向性

- (1) 地域における交流の促進
- (2) 課題を早期発見・早期対応できる地域づくり
- (3) 福祉団体等の活動推進
- (4) 災害時に備えた地域づくりの推進

基本目標3 誰もが安心して暮らせるしくみづくり

施策の
方向性

- (1) 地域福祉の基盤づくりとネットワークの強化
- (2) 包括的な相談・支援体制の強化
- (3) 権利擁護のための支援の充実
- (4) 更生支援に向けた地域づくり

= 重点目標 =

1. 第4次地域福祉活動計画の推進

活動計画の推進を検討する「藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会」の事務局として、会の運営と取り組みを支援した。同連絡会の取り組みとして、今年度は基本方針を同じくする市地域福祉計画 2026 における中間見直しの内容を踏まえ、市計画に新たに追加された施策の方向性「孤独・孤立の防止」に関する活動計画上の捉え方について協議を行い、結果として現行の目標や方向性の中に包含し取り組みを進めることとなった。具体的な取り組みとしては、地域活動インセンティブ制度の導入に向けて活動推進策小委員会における市担当課等との意見交換や、先進市（東京都三鷹市・みたぽ）への視察等が行われた。

また、市社協においては地域福祉活動を推進するための活動助成（通称：たーすけ あいちゃん助成）により、14 の活動団体に対して活動及び助成の支援を行った。

○藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会の開催状況

【全体会の開催】.....3回

【運営小委員会の開催】.....6回

【活動推進策小委員会の開催】.....7回

○東京都三鷹市への視察

【実施日】 2月14日

【参加人数】 小委員会 5人・市関係者 7人

2. 地域福祉活動の推進に向けた支援体制の充実（一部新）

(1) 地域福祉の普及・啓発と人材づくり

「地域福祉活動の普及・啓発」を目的として、市民一人ひとりの状況に応じた情報提供や参加機会の創出に取り組み、地域福祉の推進と人材育成に努めた。

年3回発行の機関紙「市社協ふじさわ」では、「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」や「孤独・孤立対策推進法」の施行等をテーマに特集を組み、誰もがわかりやすく理解が深められるように配慮した。特に当事者の声を大切にし、テーマに沿った市内での様々な取り組みについても取材をし情報発信を行った。



市社協ふじさわ第64号



市社協ふじさわ第65号

また、地区ボランティアセンターや、市役所分庁舎 2 階の活動室に登録している当事者団体を紹介するパンフレットやリーフレットを作成し、会員増加や活動内容の普及啓発に努めた。

専門人材の養成は、市内での介護・福祉職場への就労を希望する方を対象に市内社会福祉法人との協働による介護職員初任者研修を開催し、受講者 3 人（20 代、30 代、50 代各 1 人）全員が修了し、福祉現場への就労にもつながっている。さらに今年度から新たに同行援護従業者養成研修を開催し、視覚障がいにより移動が困難な方々への支援を行うことのできる人材養成に取り組んだ。受講料を低額にしたことにより、定員を超える申し込みがあり（定員 10 人）令和 7 年度以降も継続して実施する予定である。



同行援護従事者養成研修の様子

(2) 生活支援の仕組みづくり

高齢者をはじめ誰もが、地域とのつながりや生きがいを持って暮らし続けられるように、生活支援コーディネーター（第 1 層・市域、第 2 層・市内 13 地区）の協働体制を基盤として、13 地区の特色を踏まえた地域のニーズや課題を、NPO、事業所、社会福祉法人、民間企業、ボランティアや地域住民をはじめとした多様な主体と連携を図りながら、地域における担い手の創出や生活支援サービス等の充実・拡大・開発、利用の充実を図る支援を実施した。

具体的には、市民センター・公民館、地域共生社会推進室、地域包括支援センターとの連携の中で、協議体等、地域の様々な会議体の取り組みが相互に連携しあい、長寿の人生をその人らしく生きていくための見守りや認知症をテーマとした住民主体の話し合い、「障がい」「ヤングケアラー」等の多様なニーズへの取り組みを行った。

(3) 包括的な相談支援体制の構築

① 重層的支援体制整備事業への取組

13 地区各市民センター・公民館を中心に、地域包括支援センター、障がい者地域相談支援センター等の専門機関との情報交換を実施し、地区内の相談機関ネットワークの構築強化を図り、複合・複雑化した課題を抱えている方（世帯）について、連携・協働して対応にあたった。

様々な課題が重なり合っている困りごとの解決にあたるため、単独の支援機関だけでなく多機関で協働し、個別支援と世帯支援の両面からの関りをもって、課題に応じた、様々な観点から課題解決の方法を導き出していくための「重層的支援会議」を実施。また支援が必要であるが同意が得

られない対象者に、早期に支援体制の整備を検討する「支援会議」も市と協働して積極的に開催した。

また学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に指定された市内小中学校の運営協議会委員としてコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が、会議・研修等に参加し、教育・子ども支援に関する地域との連携強化を図った。

②特例貸付借受人へのフォローアップ支援

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急小口資金等特例貸付において、職員体制を強化し、償還免除の承認を受けた方や償還が困難な状況にある方等を対象に、生活状況を把握し生活再建に向けてCSWと連携しながら一体的な相談支援に取り組んだ。

特例貸付の償還が始まって1年以上経過し、計画通り償還できている方、計画より遅れている方、償還が難しく免除若しくは猶予の手続きを行った方、未応答の方（償還せず、免除・猶予の手続き案内にも無回答の方）等に対象が種別されるなか、今年度は、未応答者のうち、女性や65歳以上の方、計277人を対象に意向確認用の手紙の送付と戸別訪問を実施した結果、18人の方を償還猶予につなげることができた。

（4）ひきこもりや生活困窮者等の地域で孤立しがちな方への支援

①ひきこもり等社会参加事業の推進

重層的支援体制整備事業の「参加支援」として、当事者やその家族の意向に寄り添い地域社会とのつながりを持つことができる利用しやすい場づくり、地域づくりを進めた。

市役所分庁舎2階にある「社会参加活動室」において、活動者の意見を踏まえた場づくりに努め、ひきこもりや生活困窮者、地域で孤立しがちな方等の居場所・ボランティア活動を通して社会とのつながりを持つことができるよう支援し、孤独や孤立の解消につなげた。また、ミニ勉強会を実施し、「就労準備について」「生活費について」等当事者の知識を深める機会を提供するほか、誰もが楽しく参加できる「まったり会」を月1回開催した。

また、市の「ふじなみ交流センター」では令和5年度の試行期間を経て、ひきこもり当事者等の新たな居場所「こころま」を本格実施し、当事者同士の交流の機会を提供した。参加者の合計は延べ102人、40～50代が6割を占め、他市在住者の参加もあった。

また、ひきこもり家族の会のひとつである「つぼみの会（ひきこもり家族を持つ親・きょうだいの会）」との連携も、平成28年以来継続しており、世話人会・定例会への参加、定例会でのわかちあい・ミニ勉強会の支援を実施した。



【ミニ勉強会の様子】



【ミニ勉強会チラシ】



【まったり会の様子】

②社会的孤立等生活支援事業の推進

地域との関わりの希薄化や社会的孤立、複合的な課題を抱える家族の増加等の地域生活課題が多様化・複雑化する中、子どもの貧困、不登校、ひきこもり、ヤングケアラー等、子どもを取り巻く諸課題に対しての支援として、制度を利用できない生活困窮家庭に対する家事支援等生活支援をCSW、在宅福祉サービスセンター、ボランティアセンターの連携により実施した。

また、生活困窮世帯を対象とする「学童援護事業」や「年末たすけあい見舞金事業」における増額支給の継続など引き続き支援の充実を図った。特に「学童援護事業」はアズビル山武財団の「あすなるフレンドシップ就学支援制度」の実施に際し、同制度が支援対象とする高等学校進学者と中学校進学者に加え、市社協独自の支援として小学校進学者も対象とし同時期に支援金申請を受け付け合計で299人、対象者の94%の支給実施となった。

(5) 地域福祉活動センターの運営

地域福祉活動センターでは、障がい、疾病、介護、子育て、生活困窮、社会的孤立など、生活上の課題を抱える当事者やその家族及び、地域における福祉課題の解決に取り組む団体を対象に、支援体制の強化と活動環境の整備について取り組んだ。

また、活動室を利用している登録団体を紹介するリーフレットを作成し、登録団体間の相互理解や情報共有の促進を図るほか、多目的室のレイアウト変更により利便性の向上を図った。

ア. 登録団体数

区 分	令和6年度	令和5年度
当事者会/家族会/自助グループ	34 団体	33 団体
福祉関係ボランティア団体	17 団体	17 団体
地域福祉関係団体	8 団体	7 団体
福祉関係機関の協議体	23 団体	23 団体
合 計	82 団体	80 団体

イ. 活動室等の利用状況

区 分	令和6年度	令和5年度
活動室 1～4	1,178 件 (15,163 人)	1,005 件 (14,322 人)
ロッカー	41 団体	40 団体
印刷機	387 件	352 件



分庁舎2階多目的スペース



活動室登録団体紹介リーフレット

福祉情報 Web サイトについては、掲載情報の更新や新規情報の入力等、掲載情報の充実や、地域の社会資源をより検索しやすくするための見直しを行う予定であったが、行政、各専門の関係機関や地域活動団体との連携を通じて、常に最新の情報の発信を継続することの課題があった。令和7年度以降、大きく内容を見直す予定である。

(6) 地域福祉物流・交流拠点の運営（新規）

フードバンクやパントリー、子ども食堂等の活動団体を支援するため、活動に対する食品等の寄付受入れや保管、配分を行う拠点として、湘南藤沢地方卸売市場内の店舗を借り上げ、市(子ども青年部)の運営費等一部助成やフードバンクふじさわを運営する NPO 法人から大型冷凍庫の提供等の協力を得て、常温保存食品に加え冷凍食品の寄付にも対応が可能な設備等を整備し、7月からフードバンクふじさわの活動拠点及びふじさわ子ども食堂地域食堂ネットワークの食品等配分拠点として運営を開始した。

フードバンクふじさわの活動等を支援することにより、冷凍食品を主に受入れ量が大幅に増加し、パントリー利用者への提供食品の充実が図られ、子ども食堂活動団体へも継続的な食品提供が行えるようになった。(冷凍食品延べ受入量 5,456 kg)

また、米の価格上昇がひとり親世帯等を支えるフードバンクの運営や子ども食堂等の運営に大きな影響を与えていることを踏まえ、市と協働して米 6,300 kg を購入し、フードバンクふじさわや子ども食堂等(24 団体)に配付し、活動を支援した。



卸売市場の写真



搬入中の冷凍車



食材保管用の冷蔵庫



物流・交流拠点 1 階



物流・交流拠点 2 階

3. 関係機関や民間企業等との連携

(1) 社会福祉法人による地域の公益的な取り組みの推進

地域の公益的な取り組みの推進を目的に、市内 42 の社会福祉法人が分野を超えて連携・協働していくための協議体(藤沢市地域公益事業推進法人協議会)の参加法人兼事務局として会の活動支援に

取り組んだ。

今年度は「福祉なんでも相談窓口」の充実に向けて、法人間連携「顔の見える関係づくり」を進めるため、地区別研修を令和5年度の3エリアから6エリアとし、より身近なエリアでの法人間連携ができる関係づくりに力を入れ研修を行った。

また、新たな公益的な取り組みとして、福祉なんでも相談窓口での対応のうち緊急を要する支援者に対し、適切な支援につなげるまでの緊急支援事業を8法人により9月から試行的に行い2件の支援を実施するほか、10月の赤い羽根共同募金運動（街頭募金）への参加協力により法人協議会の活動周知に努めた。（9法人14人）



藤沢駅南口2階通路での街頭募

【福祉なんでも相談窓口担当者研修会実績】

エリア	開催日	参加人数	場所
御所見・長後・湘南台	9月5日（木）	10人・5法人	特別養護老人ホームかつらはら
六会	9月3日（火）	10人・6法人	六会市民センター
	11月29日（金）	6人・6法人	地域福祉活動センター
遠藤・湘南大庭・明治	9月10日（火）	15人・11法人	特別養護老人ホームかりん
善行	9月20日（金）	10人・6法人	児童養護施設聖園子供の家
村岡	9月13日（金）	11人・4法人	村岡宮前ローカルサイト
辻堂・鶴沼・片瀬	9月27日（金）	13人・9法人	藤沢特別養護老人ホーム



地区別研修会の様子



(2) 民間機関や民間企業等との連携

①JAさがみとの農福連携事業

JAさがみわいわい市藤沢店の協力のもと、地域の農家の方々から提供された野菜などの食材を、市社協を通じて市内の子ども食堂地域食堂やフードバンクふじさわ等が活用できるよう継続的に支援を実施した。

食材の引き取り・提供回数	36回（令和5年度：47回）
提供団体数（延べ）	216団体（令和5年度：192団体）
配送ボランティア登録数	2人（令和5年度：2人）

農福連携事業

わいわい市藤沢店で発生する売れ残ってしまった商品、庫内所出庫に至らない適格外品を生産者の皆様よりご提供いただき、市内の子ども食堂等で活用しています。

第1、3、木曜日と
第1火曜日 若しくは **最終火曜日**
 ⇒ 市内の子ども食堂で活用
第2火曜日
 ⇒ フードバンクふじさわで活用
※「フードバンクふじさわ」及び「フードバンク等」に対して申請で連携を提供する活動をしている団体です。

いつもご協力ありがとうございます。

②アズビル山武財団「あすなるフレンドシップ就学支援制度」との連携

経済的支援が必要なひとり親世帯の子どもの就学支援等を目的に支援金を支給するアズビル山武財団「あすなるフレンドシップ就学支援制度」の実施にあたり、同財団、藤沢市、市社協の三者連携に関する協定により、支援金申請の受付事務を担い、必要に応じて相談支援を実施した。

- <対象> 市内在住で児童扶養手当の全額給付認定者
(生活保護受給世帯は除く)
- <支給額> ①令和7年4月に高校進学又は就職 5万円
②令和7年4月に中学進学 3万円
- <申込期間> 令和6年11月1日から令和7年1月31日まで
- <申請件数/対象件数> 242件/255件 (申請率94.9%)



③無印良品 Fuji 善行との連携

生活福祉資金（教育支援資金）の貸付手続きを行う中学生、高校生に対し、無印良品 Fuji 善行の協力を得て、記念品と企業・市社協からのお祝いメッセージを渡し、門出を祝うとともに、市社協が、生活に困りごとがあった時に気軽に相談できる機関であることの周知を行った。

<件数>中学生24人、高校生52人 合計76人

(3) 地区社会福祉協議会等との連携

地域福祉を推進する地区社会福祉協議会の活動を支援することを目的に、地区社会福祉協議会連絡協議会の事務局として、14地区社会福祉協議会の情報共有や意見交換を主とした定例会議と、「敬老会」「孤独・孤立」「子ども関連事業」など興味関心の高いテーマについての勉強会・交流会の開催を支援した。



民生委員児童委員活動については、各地区民児協定例会に毎月CSWが出席し、民生委員児童委員が地域福祉活動を円滑に進めるためのサポート体制を地域包括支援センターと共に整えている。また、今年度は市民児協「低所得者部会」から研修の講師依頼があり、CSWの対応事例を交えて、低所得者層への支援の在り方を共有した。



保護司会については、保護司会の事務局として総会、理事会のほか、社会を明るくする運動推進委員会等の運営支援を行った。特に社会を明るくする運動の一環として、藤沢市民会館大ホールで実施した藤沢地区大会やひまわりの種の配布等の普及啓発、小中学生を対象とした作文コンテストの実施等に協力。また、一部の分区会では、CSW が出席する中で相互の活動を共有し、保護司の活動の一助になるよう取り組んだ。

4. 権利擁護の推進

(1) 成年後見制度等の相談機会及び利用支援機能の充実

権利擁護相談機関として、あんしんセンター職員による一般相談のほか、各専門職団体と連携した定例専門相談（毎月第1～4水曜日開催）、及び親族後見人を主な対象とした専門相談、老人福祉センターやすらぎ荘及び北部障がい者地域相談支援センターかわうそ（湘南台文化センター内）を会場とした出張専門相談など、制度利用等に関する相談機会を提供した結果、一般相談延べ件数が令和5年度の1,905件から2,092件に増加した。このうち9割近くが継続相談で、特に市社協が法人後見を担っている当事者から日常的に問い合わせや要望等を受ける件数が多い状況となっている。

その他、地域できめ細やかな後見活動を担う市民後見人の育成・活用を図るため、第7期となる市民後見人養成講座や市民後見人候補者バンクの登録者を対象としたフォローアップ研修（年3回）の開催、及び家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦するための受任調整会議（年1回）の開催、さらに市社協が法人として後見活動に取り組むこと等により利用支援の充実に努めた。

(2) 権利擁護支援に係る中核機関の運営

権利擁護に関する支援体制の充実に向けて「藤沢市権利擁護ネットワーク連絡会」を年3回開催し、中核機関としてのあんしんセンターの取り組み等について情報共有・意見交換を行うことにより、本市における関係機関の連携強化に努めた。

また、成年後見制度の普及啓発を図るための市民講座については、第1回（10月4日開催）を藤沢商工会館ミナパークにおいて、3部構成（第1部は制度を利用されている当事者や当事者のご家族・支援関係者の体験談、第2部は弁護士による制度解説、第3部はアンケート票による質疑応答）で実施し、第2回（3月1日開催）を市役所分庁舎において、司法書士による成年後見制度申立書の書き方等の解説をテーマに実施したところ、いずれも受講したほとんどの方から満足されたというアンケート結果が得られた。

さらに、成年後見人等が選任されるまでの間に緊急的な金銭管理等の支援を行う「緊急的な場面における生活支援事業（旧緊急事務管理事業）」については、令和4年9月の事業開始以来、令和6年度末までに対象となった31人に対して適宜必要な支援を継続し、3月末現在、22人に成年後見人等が選任されている。

その他、成年後見人等候補者のマッチングなど、主に権利擁護に係る個別案件の協議を行う中核機関運営会議の開催（年3回）や横浜家庭裁判所とのヒアリング等を実施することにより、中核機関としての適切な運営を図った。

5. 在宅福祉事業等への取り組み

(1) 共生社会に向けた生活支援の実施（一部新規）

家事・子育てに対して不安や負担を抱える子育て家庭、妊産婦、ヤングケアラー等がいる家庭を対象とした市の「子育て世帯訪問支援事業」の委託を受け、ヘルパーが対象世帯に訪問し、家事・子育て等の支援を実施し、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことにつなげた。

また、市が8月に新設した「共生型ホームヘルプサービス事業」を受託し、既存の制度の支援対象とならない方に対して、ホームヘルプサービス事業を提供して生活の安定を図るための支援を実施していくこととなったが、今年度の実績はなかった。

並行して市社協も社会的孤立支援事業として、緊急性が高く、制度・サービスにつながりにくいひとり親家庭等に支援が必要な世帯に、CSW・在宅福祉サービスセンター・ボランティアセンターが連携し相談支援と生活支援サービスの提供を一体的に実施し、7世帯計172.25時間の生活支援を行った。

(2) 制度事業への取り組み

登録ヘルパーの減に伴い事業継続が厳しい現状の中、市内の安定したサービス提供の一助となるよう、障がい福祉サービス事業を市や関係機関と連携して実施した。

① 居宅介護等事業（障がいホームヘルプサービス）利用者実績

令和6年度.....116人.....(令和5年度 136人)
派遣回数(延べ).....6,859回.....(令和5年度 8,070回)

② 相談支援事業（サービス利用計画）利用者実績

令和6年度.....57人.....(令和5年度 71人)
内訳 身体障がい 3人 知的障がい 34人 精神障がい 9人
重複障がい(身体・知的) 7人(身体・精神) 1人
(知的・精神) 3人



6. いきいきシニアセンター（藤沢市老人福祉センター）の運営

指定管理期間の第2年度として、藤沢市の3つの計画等(藤沢市高齢者保健福祉計画・藤沢市健康増進計画・藤沢型地域包括ケアシステム)の基本理念を、藤沢市老人福祉センターの事業推進における共通の理念と位置付け、市が定める施設の管理運営の基本方針に即しながら、地域福祉推進の拠点としての役割を果たせるよう、各センターの地域特性やCS調査による利用者ニーズに合わせた運営を実施した。

主催事業では、ICT活用の普及啓発を目的としたスマートフォン講座を各センターで実施し、SNSの活用の仕方や、情報端末から必要な情報を得るための手段を学ぶ機会とした。また、施設内共有スペースではデジタルサイネージを設置し、情報発信をするとともに設備を利用した健康体操にも活用した。

障がい者団体等による弁当販売の実施、地域団体等と連携した子ども食堂の定期的な開催は今年度も継続し、様々な世代や地域住民との交流を図ることができた。

①3 センターの利用状況

- ア. やすらぎ荘 38,852 人
(令和5年度: 39,230 人)
- イ. 湘南なぎさ荘 44,596 人
(令和5年度: 41,177 人)
- ウ. こぶし荘 71,512 人
(令和5年度: 63,714 人)

②健康講座等の実施回数・参加者数 ※自主介護予防事業を含む

- ア. やすらぎ荘 449 回・7,001 人 (令和5年度: 395 回・3,995 人)
- イ. 湘南なぎさ荘 817 回・9,193 人 (令和5年度: 679 回・4,726 人)
- ウ. こぶし荘 720 回・17,716 人 (令和5年度: 472 回・6,751 人)



こぶしLINE 画像

【一般利用者を対象とした継続的な健康維持増進の取り組み】



やすらぎ荘
「やすらぎ体操・カワセミ体操」



湘南なぎさ荘
「からだいきいきプログラム」



こぶし荘
「ごぼう先生体操」

7. 災害対応に向けた取り組みの推進

8月31日(土)に予定されていた藤沢市防災フェアでは、NPO 法人藤沢災害救援ボランティアネットワークと合同で災害ボランティアセンターの役割や活動内容を紹介するブースを設置する予定であったが、大雨の影響で中止となった。

2月20日(木)には、三者協定に基づく話し合いのもと災害ボランティアセンター(以下「センター」)の開設訓練を実施し、発災からセンター立ち上げまでの図上訓練の後、センターの設置予定場所となる市役所分庁舎1階フロア及び分庁舎前広場にて、テント設営スペースの有無や市内外から訪れる支援ボランティアの受付や集合場所等について拠点確認を行った。

また、1月に発生した能登半島地震では、全国社会福祉協議会を中心とする社協間支援協定に基づく

応援要請に対し、市社協からも石川県の七尾市及び能登町の社協が運営するセンターに計 3 人の職員を派遣するほか、8 月末に発生した台風 10 号により県内においても平塚市、秦野市、二宮町の 2 市 1 町でセンターが立ち上がったことを受け、神奈川県社会福祉協議会主催によるセンター運営等の報告会に参加し、課題共有を図るなど広域的な連携に取り組んだ。

なお、県内社協間の災害時支援体制の強化と円滑な情報共有のため、災害ボランティアセンター用アプリ（kintone）が導入されており、能登半島地震被災地におけるセンターでの活動や記録作成などに活用され、情報を共有することができた。



能登町災害ボランティアセンターにおけるオリエンテーション
ボランティア受付の様子



七尾市・被災した家屋

《 実 施 事 業 》

1. 地域福祉推進事業

市社協が進める地域福祉事業への理解と参加・協力を求めるために、機関紙やホームページによる周知や社会福祉大会等の行事による啓発事業を実施した。

(1) 機関紙「市社協ふじさわ」の発行

市民や関係機関等に、市社協への理解と協力をお願いするために機関紙を発行し、事業周知や福祉情報の提供と賛助会員募集を行った。

【第 63 号／5 月発行】令和 6 年度事業計画・予算の概要、障害者差別解消法について ほか

【第 64 号／9 月発行】令和 5 年度事業報告・決算の概要、孤独・孤立対策推進法について ほか

【第 65 号／1 月発行】ヤングケアラーについて ほか ※発行部数 各 9,300 部



(2) 市社協ホームページによる福祉情報の提供

市社協が進める各種事業や講座・研修・イベント等、各種情報の提供と併せて、事業計画・予算や事業報告・決算、財務諸表や法人組織の現況報告等、組織広報に努めた。

また、「あすなろフレンドシップ就学支援制度」のお知らせや「市社会福祉大会」、「ふれあいフェスタ」等のイベント開催、地域福祉活動計画周知動画「まんが地域福祉物語」等については、トップページにアイコンを設け事業周知に努めた。

(3) 第 56 回藤沢市社会福祉大会（市共催事業）

市民に向けて地域福祉への協力と理解を深める場として、社会福祉大会を市と共催した。なお、今年度は「地域をつなぐ～多様な主体による参加と協働」を基本コンセプトとする地域福祉プラザ（市役所分庁舎 1～2 階）を会場とし、同プラザの利用促進を図る機会に努めた。

【日 時】11 月 17 日（日） 13：30～16：00

【表 彰】個人 5 人・団体 14 人（令和 5 年度は個人 2、団体 8）

【シポジウム】これからの地域福祉-ふじさわの地域づくりを考えよう-

【基調報告】藤沢市地域共生社会推進室室長 古郡 亘幸 氏

【座談会】藤沢市地区社会福祉協議会/片瀬地区社会福祉協議会会長 澁谷 晴子 氏
特定非営利活動法人 laule' a 副理事長 大郷 和成 氏
六会いきいきサポートセンター 主任介護支援専門員 丸山 嘉代 氏

長後フロンティアプロジェクト 副代表/高校生リーダー 河岡 祐奈 氏

株式会社イトーヨーカ堂 湘南台店店長 多部田 揚啓 氏

販売本部お届けサービス部マネジャー 東 宏之 氏

【参加人数】120人（令和5年度は140人）

（4）障がい者週間キャンペーン事業

広く障がい者福祉についての関心と理解を深めることを目的とした障がい者週間（12月3日から9日までの1週間）において、12月のふれあいフェスタを通しての啓発及び啓発物品の配架による周知に努めた。

【市役所関係課及び市社協事務局窓口カウンターに啓発用ポケットティッシュを配架】

（5）第4次地域福祉活動計画の推進

「藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会」において、計画推進のための検討や取り組みが実施された。市社協では、同連絡協議会の事務局としてその運営を支援するとともに、地域活動団体への助成支援等を実施した。

①藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会

ア．全体会

区分	日 時	主な内容
第1回	6月5日（水） 13時30分～	<ul style="list-style-type: none">委員の就任及び役員の選出について2024年度の活動計画推進に向けた取り組みについて藤沢市地域福祉計画2026の中間見直しについてたーすけ あいちゃん助成に関する報告
第2回	10月11日（金） 13時30分～	<ul style="list-style-type: none">藤沢市地域福祉計画2026の中間見直しへの対応について小委員会からの報告等についてインセンティブ要望に関する市の検討状況等についてこども計画の策定に向けた準備と基礎調査について計画推進に向けた取り組み報告についてたーすけ あいちゃん助成の報告
第3回	2月26日（水） 10時～	<ul style="list-style-type: none">令和6年度の取り組み報告地域活動等インセンティブ制度について委員意見（課題）への対応について計画推進に向けた取り組み等に関する意見交換会たーすけ あいちゃん助成の報告令和7年度の取り組み予定 ほか

イ．小委員会

（ア）連絡運営小委員会

開催回数：6回（5/27、7/17、9/10、10/7、12/2、2/21）

検討内容：会の運営に関する事項、地域活動等インセンティブに関する検討等

(イ) 活動推進策小委員会

開催回数：7回（7/17、8/15、9/5、9/24、10/4、2/7、2/14）

検討内容：地域活動等インセンティブに関する検討等

(ウ) 計画推進に向けた主な取り組み（地域活動等インセンティブ）

・10/4・2/7 藤沢市担当部課等との意見交換

・2/14 先進市である、三鷹市（みたぼ）への視察

※視察参加者：活動推進策小委員会、市関係課、事務局（市社協）

②計画を推進する地域活動の支援

地域福祉活動増進事業（たーすけ あいちゃん助成事業）により、14 団体 14 事業に助成支援を行った。

No	申請団体	活動内容	助成額
1	ふじさわこども食堂・地域食堂ネットワーク	市内のこども食堂及び地域食堂の主催団体のネットワークを構築し、講習会や交流会を開催。	50,000
2	マイミライnext	湘南大庭地区の「世代間交流の場を通じた地域づくり」のためのコミュニティスペースの運営及び交流事業等。	150,000
3	長後塾	高齢者の交流の場と関係者の地域づくり。	300,000
4	四ツ辻団地自治会	小学1～3年生の働く親のため、7：00～登校までの預かり事業。	50,000
5	明治地区いばしょ食堂実行委員会	次年度にこども食堂を開催するまえの準備として、8月と12月にプレ食堂を開催。	50,000
6	フードバンクふじさわ	寄せられた食料品寄付を配布拠点を通して困窮世帯へ配布。	300,000
7	鶴沼地区ボランティアセンター「ささえ」	庭づくりを通して、住民のふれあい、つながり、社会参加をうながす。	100,000
8	長後寺子屋ぽかぽか	小中学生を対象に学習支援と季節のイベントを開催。	300,000
9	湘南台地区公園体操世話人会	湘南台1日健康デーを開催。健康維持及び見守りと交流促進を図る。	110,000
10	湘南台地区学校応援団	湘南台小中学校区の不登校のための郊外での居場所づくり事業。	50,000
11	ゆめちゃんの会	毎月開催している「ゆめちゃん食堂」で使用している冷蔵庫の買い替え。	179,000
12	長後ファイト実行委員会	長後地区の活性化と顔の見える関係づくりのためのイベント開催	200,000
13	nico川名	新林小学校区の児童を対象とした、短縮授業や長期休みの居場所づくり。	50,000
14	ふじさわDカフェの会	月1回開催している認知症カフェのイベントとして、「空の下でDカフェ」を開催。	120,000
合 計			2,009,000

2. 地域の縁側事業（市受託事業）

市が推進している「地域の縁側事業」について、新規開設を検討する団体への開設支援や、既存の実施団体への運営支援等を市と協働で行った。

（1）地域の縁側の募集及び開設状況

- ・開所：36 か所（内訳：基幹型 4 か所、特定型 6 か所、基本型 26 か所）
- ・閉所：なし
- ・活動場所の変更：なし

※8月に遠藤・六会・湘南台で新規開設募集を実施したが、応募なし。

12月に地区を限定せず再募集し審査会を経て六会・湘南台地区各1団体が令和7年4月開所予定となった。

（2）運営状況

①運営団体別内訳

【地域住民・地域団体】...22団体 【法人（社福・NPO）】...14団体

②拠点別内訳

拠点別区分	地区ボランティアセンター	2 か所	店舗活用	2 か所
	市民の家・自治会館等	13 か所	法人事業拠点	10 か所
	自宅開放	4 か所	地域ささえあいセンター	4 か所
	空き家活用	1 か所	合 計	36 か所

（3）支援事業

地域の縁側事業の普及啓発・推進に向けた支援を実施した。

①開設に向けた支援

令和7年度からオープン予定となったサロンしげたについて、藤沢市市民活動推進センター、藤沢市地域共生社会推進室と湘南台市民センター等との協働で新団体応援座談会 in 湘南台を開催。サロンしげたのプレオープンと地域の先輩団体との交流会を開催した。



②専門職による訪問支援

【専門職（縁側担当・CSW）による訪問・相談等】

区 分	令和6年度
訪問回数（実施状況の把握）	374回
活動全般に関する相談	686回
開所希望団体からの相談	1団体
情報発信に関する相談	308回
福祉情報 Web サイトの更新	308回

（4）市担当課との定例会議

藤沢市地域共生社会推進室との定例会議を毎月第1水曜日に実施し、地域の縁側事業の運営支援を市と協働して行った。

（5）研修会の開催

3月に研修会・交流会を開催し、お互いの活動内容を共有し、顔の見える関係を築くことでそれぞれの横の連携をもち、地域におけるネットワークの構築につなげることができた。

＜開催日時・場所＞ 3月3日（月）4日（火） 分庁舎2階活動室1・2

＜内容＞ a. 「補助金申請書類等の書き方について」（地域共生社会推進室）

b. 「年を重ねることと超高齢社会における居場所の持つ役割」

（小野第1層生活支援コーディネーター）

c. 交流会

（6）情報発信

5月にパンフレットを最新の内容に修正し3,000部準備し、関係各所に配架を行うと共に、CSW等地域活動支援の際活用し、地域の縁側の「誰もが気軽に立ち寄れる居場所」としての更なる周知を行った。藤沢市福祉情報 Web サイトにおいても地域の縁側の基本情報と併せて、毎月の予定表やイベントチラシのお知らせ、活動写真や作品、事業担当者やCSWの定期的な訪問等で得た情報を掲載し、最新で正確な情報の提供を継続した。

（7）「地域の縁側ポイント」の実績

＜登録者数＞55人 ＜登録縁側数＞18団体

3. 社会福祉法人や民間企業等との地域貢献事業

（1）藤沢市地域公益事業推進法人協議会

市内の高齢・障がい・児童関係の分野を超えた社会福祉法人が、協働して地域の公益的な取り組みを進めて行くために立ち上げた「藤沢市地域公益事業推進法人協議会」の事務局として、事業実

施や会の運営支援に取り組んだ。

①運営委員会の開催

第1回 (6月7日)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員の交代について ・要綱の改定について ・令和5年度事業報告並びに決算について ・令和6年度事業計画及び予算について ・地区別研修会について ・緊急支援モデル事業について
第2回 (8月19日)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別研修会について ・緊急支援モデル事業について ・法人協議会周知活動について
第3回 (10月29日)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別研修会についての振り返り及び下半期研修について ・緊急支援モデル事業について ・法人協議会の取り組みについて
第4回 (3月17日)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別研修会について ・緊急支援モデル事業について ・法人協議会の取り組みについて ・令和6年度事業王国及び決算書について ・令和7年度事業計画及び予算について ・新たな公益事業の取り組みについて

②福祉なんでも相談窓口の研修会の開催

開催概要		主な内容
地区別研修会	9月5日(木) 16:00-18:00 御所見・長後・湘南台エリア (特別養護老人ホームかつらはら)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉なんでも相談窓口の目的 ・自己紹介及び施設紹介 ・グループディスカッション (地域マップづくり、事例検討、自治会との関わりについて、各法人の取り組みについて、施設での困りごとについて等)
	9月3日(火) 16:00-18:00 六会エリア(六会市民センター)	
	9月10日(火) 16:00-18:00 遠藤・湘南大庭・明治エリア (特別養護老人ホームかりん)	
	9月20日(金) 16:00-18:00 善行エリア(児童養護施設聖園子供の家)	
	9月13日(金) 16:30-18:30 村岡エリア(村岡宮前ローカルサイト)	
	9月27日(金) 16:00-18:00 (藤沢特別養護老人ホーム)	

地区別 研修会	11月29日（金）13：30-15：00 六会エリア（地域福祉活動センター）	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉なんでも相談窓口の目的 ・グループディスカッション （保育園における家族支援、地域の育児拠点として）
------------	---	--

【地区別研修会 参加者 75人／参加法人 34法人】

③福祉なんでも相談窓口事業の実施

【相談実績】 新規 7件 / 継続 0件

④緊急支援モデル事業

【支援実績】 2件

(2) 民間企業連携事業

①JA さがみわいわい市藤沢店との農福連携事業

わいわい市藤沢店にて、売れ残りや出荷に至らない規格外品の野菜等の食材を農家から寄付として受け、市社協を通じて市内の子ども食堂地域食堂やフードバンクふじさわ等で活用している。

②経済的支援が必要なひとり親世帯の子どもの就労支援等を目的とする、アズビル山武財団「あすなるフレンドシップ就学支援制度」の実施に伴い、必要な事務を行った。

【対 象】 藤沢市在住で児童扶養手当の全額給付認定者（生活保護世帯は除く）

【支給額】 令和7年4月に高校進学又は就職 5万円、中学校進学3万円

【申請期間】 令和6年11月1日から令和7年1月31日まで

【申請状況】

区 分	令和6年度	令和5年度
中学校進学	124件	81件
高校進学	118件	95件

③自動車運転免許取得支援事業

(株)キャリアドライブ藤沢高等自動車学校と協力して、就職して児童養護施設の退所を控えている方等へ、自動車運転免許取得費用を給付し、社会人のスタートを応援する事業だが、今年度は、該当者はいなかった。

4. 援護事業

低所得世帯等の福祉増進を図るため、各種援護事業を実施した。

(1) 行旅人援護事業（市受託事業）

目的地まで移動中の旅費困窮者に対して、隣接市までの交通費を支給した。

区 分	令和6年度	令和5年度
支給人数	28人	21人
支給総額	6,000円	4,200円

(2) 学童援護事業

生活困窮世帯の福祉増進を図るため、民生委員児童委員活動及び生活困窮者自立相談支援機関等で把握された該当世帯の小・中学校入学児童に対して、祝金を支給した。なお、今年度も、支給額の増額及び支給対象を児童扶養手当支給対象世帯の小学校入学児童に拡大した。

※児童一人あたりの支給額について 従来：1万円 ⇒ 令和6年度：2万円（1万円の増額）
（@10,000円）

区 分		令和6年度	令和5年度
支給人数		80人	81人
内訳	小学生	62人	58人
	中学生	18人	23人
支給総額		1,600,000円	1,620,000円

(3) 交通遺児援護事業

交通遺児世帯の中学校卒業の遺児に対し、激励金の支給と、18歳未満の遺児に対して図書カードを贈った。

① 激励金の支給（@30,000円）

区分		令和6年	令和5年
支給人数		2人	0人
内訳	中学入学	0人	0人
	中学卒業	2人	0人
	高校卒業	0人	0人
支給総額		60,000円	0円

② 図書カードの支給（@10,000円）

区 分	令和6年度	令和5年度
支給人数	3人	4人
支給総額	30,000円	40,000円

(4) 年末たすけあい見舞金事業

民生委員児童委員のほか、生活困窮者自立相談支援機関等の活動を通じて、生活困窮者世帯に対して、夏期・年末見舞金を支給した。なお、今年度も世帯あたりの支給額を増額した。

※一世帯あたりの支給額について

【夏期】従来：3千円 ⇒ 令和6年度：8千円（5千円の増額）

【年末】従来：5千円 ⇒ 令和6年度：1万円（5千円の増額）

①夏期見舞金の支給（世帯R6@8,000円）

区 分	令和6年度	令和5年度
支給世帯	225世帯	206世帯
支給総額	1,800,000円	1,648,000円

②年末見舞金（世帯R6@10,000円・人員@3,000円）

区 分	令和6年度	令和5年度
支給世帯	241世帯	226世帯
支給人員	634人	602人
支給総額	4,312,000円	4,086,000円

③地域活動支援センターⅢ型（@70,000円）

区 分	令和6年度	令和5年度
支給施設	5施設	5施設
支給総額	350,000円	350,000円

(5) 災害援護事業

火災の罹災世帯に対して、見舞金を支給した。

（全焼@20,000円・半焼@10,000円・死亡@15,000円・重症@10,000円）

区分	令和6年度	令和5年度
全 焼	4件／80,000円	1件／20,000円
半 焼	2件／20,000円	1件／10,000円
死 亡	0件／0円	0件／0円
重 症	0件／0円	0件／0円
支給総額	6件／100,000円	2件／30,000円

5. 福祉人材養成事業

市内の福祉・介護人材の養成を図るため、社会福祉法人等と協働し介護職員初任者研修や同行援護従事者養成研修を実施した。

(1) 福祉・介護・保育人材の養成事業

①介護職員初任者研修

市内での介護・福祉職場への就労を希望する方を対象に介護職員初任者研修を実施し、市内社会福祉法人等から講師協力を得て受講者3人(20代、30代、50代各1人)全員が修了し、福祉現場に就労にもつながっている。

【開催日】 7月6日～12月21日(21日間) 【修了者数】 3人

【受講者数】 3人 【協力法人】 15法人(他藤沢市2課)



②同行援護従業者養成研修

今年度から新たに同行援護従業者養成研修を開催し、視覚障がいにより移動が困難な方への支援を行うことのできる人材養成を実施。受講料を低額にしたこともあり、定員を超える申し込みがあり(定員10人)来年度以降も継続して実施する予定である。

【開催日】 9月21日～10月28日(5日間)

【受講者数】 一般10人 応用8人 【修了者数】 一般10人 応用8人

(2) 福祉・介護・保育人材の就業支援事業

①保育士資格の新規取得者の確保や保育士の離職防止、潜在

保育士の復職を図るため市保育課及び藤沢市民間保育園設置法人代表者会との情報共有・意見交換を実施した。

②藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会議長の横浜創英大学

こども教育学部 平野友康先生に取材し、保育士を志す方へメッセージ動画をユーチューブチャンネルに掲載した。

教えて平野先生

No.1 : 保育士の魅力 <https://www.youtube.com/watch?v=LPxOp2jNjb8>

No.2 : なぜ保育士 <https://www.youtube.com/watch?v=LPxOp2jNjb8>

No.3 : 求められる保育士 <https://www.youtube.com/watch?v=hsxezJZIWI>

No.4 : どんな人が保育士に <https://www.youtube.com/watch?v=wCS1FhF2uvY>

新作動画紹介 保育士の魅力をお伝えする「教えて平野先生」シリーズを公開しました

藤沢市社会福祉協議会Youtubeチャンネルにて新作動画を公開しました。

「教えて平野先生」シリーズを順次公開しています。

このシリーズは、保育士の資格と魅力を再発見する内容となっています。ぜひ、ご視聴ください。



6. 助成事業

地区社会福祉協議会やボランティアグループ等が進める地域福祉活動の振興や、地域福祉の増進につながると認められる事業に対して助成を行い、地域福祉活動の促進を図った。

(1) 地区社会福祉協議会連絡協議会への支援

地区社会福祉協議会同士のつながりや、民生委員児童委員協議会、市民センター・公民館、市社協と地区社協間の連携を図ることを目的とする地区社協連絡協議会の活動の支援を行った。

昨年度は地域別に地区社協が集まり地区別交流会を開催したが、今年度はテーマ別交流会に変更し同じ課題意識を持つ地区社協同士が集まった。勉強会の開催もあり市社協から10万円の助成を実施した。

開催日	内 容
5月29日	第1回 定例協議会議
8月8日	第1回 テーマ別交流会「敬老会事業について」
10月3日	第2回 テーマ別交流会「孤独・孤立対策について」
11月1日	第2回 定例協議会議
11月22日	第3回 テーマ別交流会「こどもに関する事業について」
2月26日	第3回 定例協議会 勉強会「地域における子育て支援について」

(2) 地区社会福祉協議会への活動費の助成事業

14 地区社協へ運営活動費の助成を実施した。

区 分	令和6年度	令和5年度
助成総額	4,820,000円	4,820,000円

(3) 愛の輪福祉基金助成事業（市受託事業）

市の愛の輪福祉基金補助金交付事業の申請等に関する手続きや審査会の運営を行った。

①助成等の状況

区 分	令和6年度		令和5年度	
	助成件数 (件/事業)	金 額	助成件数 (件/事業)	金 額
施設整備事業	2/2	69,000円	3/3	281,000円
地域活動団体事業	49/82	5,724,000円	49/81	5,325,000円
老人クラブ連合会支援事業 (友愛チーム)	77/77	1,155,000円	80/80	1,200,000円
合 計	128/160	6,978,000円	132/164	6,806,000円

②愛の輪審査委員会 【開催日】 7月26日(金)

(4) 地域福祉推進事業補助

市民への福祉意識の普及と地域福祉への関心を高めるため、地区社協等が実施する研修・講座や地域交流事業などに対して補助を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
補助件数	12 団体 / 12 事業	12 団体 / 12 事業
補助総額	1,590,000 円	1,456,000 円

(5) 地域福祉活動増進事業 (たーすけ あいちゃん助成)

市民団体が実施する地域福祉の増進を目的とした事業や活動に対し助成を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
補助件数	14 団体 / 14 事業	16 団体 / 16 事業
補助総額	2,009,000 円	2,549,600 円

7. ボランティア活動推進事業

(1) ボランティアセンター運営事業

福祉ボランティアに関する相談、ボランティア等の養成、地区ボランティアとの情報交換等を行い、市民の福祉に関する理解やボランティア活動への参加促進及び活動を支援した。

①相談事業

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度
登録	個人 (新規)	440 人 (211 人)	406 人 (214 人)
	団体 (新規)	137 団体 (14 団体)	140 団体 (17 団体)
相談等	ボランティアに関すること (延)	2,224 件	2,373 件
	その他 (延)	749 件	666 件
	被災地支援に関すること (延)	21 件	22 件
	来所者数 (延)	5,011 件	3,380 件
	マッチング数	365 件	452 件
VO 活動	一般	406 件 (2,460 人)	404 件 (2,495 人)
保険	大規模災害	28 件 (32 人)	22 件 (33 人)

②ボランティア等養成事業

ア. ユースボランティアミーティング

次世代の地域福祉を担う若者の育成を目的とし、ボランティアに関心のある若者が集合する機会として「ユースボランティアミーティング」を開催。大学生中心の学習支援団体に講師を依頼し、ボランティア活動の意義や実際についての意見・情報交換を行った。障がい当事者や外国にルーツのある方の参加もあり、多様性に富んだ闊達な意見交換の場となった。

開催日	内 容	人 数
3月1日(土) 11:00~12:30 分庁舎2階 活動室1.2	○メインファシリテータ：ふじらぼ学習支援教室 ・団体活動紹介 ・ワークショップ ①なぜボランティアをやりたい？ ②どんな自分になりたい？ ○「みんなでフリートーク」	22人



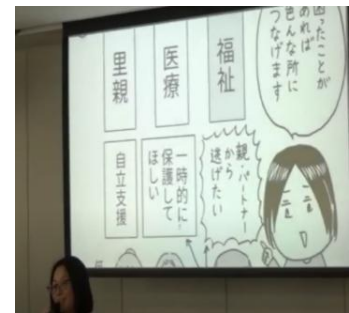
イ. 精神保健ボランティア講座の開催

藤沢市精神保健ボランティア講座実行委員会の事務局として、全4日間の講義とグループワークを含めた「精神保健ボランティア講座」を開催。今年度は実際に精神保健関係の事業所等（7箇所）でのボランティアを体験できる機会をつくり好評を得た。

③地域福祉学習会（ふくちゃんスタディーズ）の実施

地域福祉の様々な課題について理解や知識を得るための機会として、課題に沿ったテーマを設け、有識者による講演会を実施する事業で、今年度は「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の制定に伴い、人と人とのつながりを実感し、困難な問題を抱える女性が孤独や孤立をすることなく、自分自身を大切にしながら生きていける地域づくりをテーマに学習会を開催した。当日は情報保障の配慮と、会場・オンライン配信とのハイブリッド形式で、多くの参加者が参加できるよう配慮した。

開催日	2月22日
テーマ	第1部「性と生の狭間に落ちないために」 第2部「沖田✕華さんに聞いてみよう」(対談形式)
講師	沖田 ✕ 華 氏
受講者数	会場 51人 オンライン参加者 76人

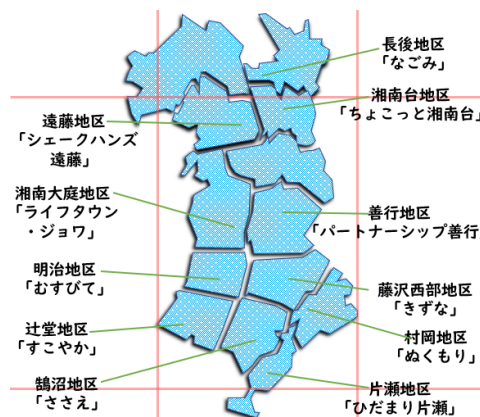


④市民活動推進センターやチーム FUJISAWA2020 との情報交換と連携

Zoom によるオンライン形式での定期的な情報交換会を計 4 回実施し、これらの会合を通じて、市民活動推進センターとふじさわボランティアセンターの活動状況や課題、今後の展望などについて共有した。また、両センターと地域共生社会推進室との共催で実施した「地域福祉活動新団体応援座談会 in 湘南台」では、地域において居場所や相談先としての役割を果たしている多様な主体が集い、互いの活動や存在を知る機会となった。チーム FUJISAWA2020 については、「ユースボランティアミーティング」実施の際、担当者に出席を依頼し、若者の活動のプラットフォームの必要性について情報交換を行った。

⑤地区ボランティアセンターとの情報交換と連携

地区ボランティアセンターの活動支援の一環として、会員増加や活動内容の普及啓発を目的としたパンフレットを作成し、関係各所に配布した。



⑥福祉体験教室

小学生を対象に、福祉やボランティア活動への理解と関心を深めることを目的として、「思いやりの心」を育み、「支え合う気持ち」の大切さを学ぶため、障がい当事者の方を講師に招き、直接のコミュニケーションを通して、共に生きるひとときの実体験を実施した。

保護者の参加により、大人（親）の姿勢が子どもたちに響くという様子も見受けられる貴重な教室となった。

開催日	① 第1回：8月19日、②第2回：8月23日
テーマ	①「耳が聞こえない方のお話し、手話を体験してみよう！」 講師：薬剤師・自転車競技メダリスト 早瀬久美氏 ②「目が見えない方のお話し、見えない世界を体験しよう！」 講師：教師・シンガーソングライター 栗山龍太氏 盲導犬：アンジーちゃん ※アシスタント：栗山氏（妻）
参加者	①参加：19人 内訳：6年生：5人 5年生：1人 4年生：4人 3年生：6人 2年生：5人 1年生：1人 ※当日見学保護者：9人 ②参加：17人 内訳：6年生：5人 5年生：2人 4年生：5人 3年生：5人 2年生：3人 1年生：2人 ※当日見学保護者55人



⑦広報活動

ふじさわボランティアセンターが実施する講座の周知や、ボランティア活動に関する情報等の提供を行った。

ボランティアニュース	毎月1日、年間12回発行（発行部数：1,390部／1回）
メールマガジン	毎月10日、年間12回発行 登録者数：493人(441人)

(2) 地域福祉活動センターの運営

①地域福祉活動センターの利用周知

藤沢市社会福祉協議会のホームページや福祉情報 Web サイト等による団体登録や活動室の利用についての情報提供、登録当事者団体の活動を紹介するリーフレットの作成を行った。

②地域福祉活動センター利用団体の支援

ア. 登録団体数

区 分	令和6年度	令和5年度
当事者会・家族会・自助グループ	34 団体	33 団体
福祉関係ボランティア団体	17 団体	17 団体
地域福祉関係団体	8 団体	7 団体
福祉関係機関の協議体	23 団体	23 団体
合 計	82 団体	80 団体



イ. 地域福祉活動センター・活動室の利用状況

活動室利用状況		【A】		【B】		【C】	
		9～12時30分		13～16時30分		17～20時	
2024年4月～2025年3月		件数	人数	件数	人数	件数	人数
登 録 団 体	活動室1	92	1,072	103	1,205	8	70
	活動室2	118	1,356	126	1,402	18	135
	活動室1・2	99	2,993	100	2,883	21	438
	活動室3	70	417	68	375	3	12
	活動室4	55	231	60	191	8	23
	活動室3・4	98	1,050	106	1,103	25	207
	小 計	532	7,119	563	7,159	83	885
	合計利用件数	1,178 件（令和5年度：1,008 件）					
合計利用人数	15,163 人（令和5年度：14,322 人）						

【ロッカーの利用団体数】

...41 団体... (令和5年度：40 団体)...

【印刷機の利用件数】

...387 件... (令和5年度：325 件)...

③多目的スペースでの情報発信

多目的スペースのレイアウトを変更する等、ボランティア情報やその他地域情報に関するチラシの配架やポスター掲示等が効果的な情報発信となるよう工夫し、登録団体が情報交換しやすい環境づくりに努めた。

(3) 地域福祉物流・交流拠点の運営（新規）

湘南藤沢地方卸売市場内に店舗を借り上げ、フードバンクふじさわ、子ども食堂等への食品寄付の受け入れ、保管、配分の支援を行う拠点として運営を開始した。

①主な寄付食品等の受入れ配布の状況

ア. フードバンクかながわから、フードバンクふじさわへの食品提供受入れ実績

お米他（常温保存） 6,432.34 kg

冷凍食品..... 5,455.86 kg

イ. フードドライブ（市フードドライブ及び市民生委員児童委員協議会）の実績 2,378.35 kg

ウ. 市内企業（いすゞ自動車）からの寄付品（レスキューフーズ等）の実績 2,287.72 kg

エ. 市からの寄付品（お粥・水・粉ミルク）の実績 1,912.6 kg...

オ. 子ども食堂地域食堂ネットワーク他への提供団体数 14団体

（フードバンクふじさわからの提供）

②藤沢市との協働によるお米の配布実績>

ア. フードバンクふじさわへ 4.5トン（5 kg 900袋）...

イ. 子ども食堂地域食堂等（24団体 29箇所）へ 1.8トン（5 kg 360袋）...

(4) 車イス等貸出事業

①通院など、一時的に車イスが必要な方に対して、車イスの貸出をした。

区分	令和6年度	令和5年度
件数（台数）	172件（336台）	158件（289台）

②学校と地域など体験学習のために、高齢者疑似体験セットの貸出をした。

区分	令和6年度	令和5年度
件数（セット数）	31件（227セット）	34件（197セット）

(5) 災害ボランティア推進事業

NPO 法人藤沢災害救援ボランティアネットワークが主催する災害ボランティア養成研修は湘南大庭地区で入門編、初級編が開催された。

(6) いきいきパートナー事業（市受託事業）

ボランティアポイント制度により、高齢者によるボランティア活動を奨励・支援し、介護予防と地域活動の活性化を図るとともに、新たなパートナー獲得を目的とした説明会を開催した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
登録者数（新規）	686 人（55 人）	654 人（52 人）
登録施設数等（新規）	124 団体（1 団体）	123 団体（1 団体）
説明会開催回数	公募 3 回	公募 2 回／施設特定 3 回

(7) 生活困窮者の自立支援関係事業

①リユース事業

市民の善意による寄付物品（家電・家具）を生活困窮家庭等に提供し、生活の再建や維持の一助として有効活用するリユース事業を関係団体と連携し実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
寄付品受入件数	31 件（56 品）	18 件（40 品）
寄付品引渡件数	32 件（48 品）	44 件（77 品）

②フードバンク運営団体との連携

フードバンク運営団体「セカンドハーベストジャパン」が提供する生活困窮者への個別配送や、県域でフードバンク事業を展開する「フードバンクかながわ」との連携、「フードバンクふじさわ」の運搬支援を行うなど、生活困窮者等への食糧支援を進めた。

【セカンドハーベストへの依頼件数】

区分	令和 6 年度	令和 5 年度
依頼件数	197 件	123 件

【フードバンクかながわとの連携事業】

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
受入食品数	1,878 個	1,483 個
提供件数	383 個	425 個
提供食品数	1,393 個	1,475 個

(8) 農福連携事業

JA さがみわいわい市藤沢店の協力のもと、地域の農家の方々からの厚意で寄付提供された野菜等食材を、市内の子ども食堂やフードバンクふじさわ等で活用できるよう支援を行った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
食材の引き取り・提供回数	47 回	47 回
活用（実）団体数	9 団体	12 団体
活用（提供）団体数（延）	164 団体	192 団体
配送ボランティア登録数	2 人	2 人

(9) ひきこもり等社会参加支援事業の推進

地域福祉活動団体への支援と市役所分庁舎 2 階「社会参加活動室」でのボランティア活動の連携に努めた。特に保護司会の取り組みである「社会を明るくする運動」では、ひまわりの種を配布するための袋詰め準備や、実際に市役所敷地内にひまわりの種をまき、水やりをする等、保護司・「社会参加活動室」利用者・事業担当が一体となって活動に取り組んだ。

(10) 地域活動のリスク管理

ボランティアの地域活動における事故等に関するリスクへの備えとして、弁護士による専門相談の場を設けていたが、今年度の実績はなかった。

(11) その他の支援

①里親講座

神奈川県中央児童相談所が主催する里親講座への参加協力事業。

【開催日】 11月23日

【会場】 茅ヶ崎市役所 4階会議室 1.2

【定員】 49人

②湘南ふじさわ子育て応援メッセ

7回目となる「湘南ふじさわ子育て応援メッセ」は、市役所分庁舎 1, 2 階を会場に、14 団体がブースを出展し、作成した「子育て情報誌」の配布や、各ワークショップを行い盛況で来場者数は 273 人となり、市社協は、事務局支援並びに補助金の支給など開催準備と当日の支援を行った。

【実行委員会等の開催状況】 ・実行委員会 13回 ・冊子編集委員会 6回

8. 資金貸付事業

失業者や障がいのある方、介護を必要とする高齢者のいる低所得世帯等に対して、生活の安定と経済的自立を図ることを目的に、各種資金の貸付を実施した。

(1) 生活福祉資金の貸付（県社協受託事業）

①総合支援資金の貸付

失業等で生活に困窮している世帯に対して、継続的な相談支援とあわせて、生活費及び一時的な資金の貸付の相談・支援を実施した。

区分	令和6年度	令和5年度
相談件数（延べ）	656件	591件
申請件数	3件	1件
貸付総額	0円	450,000円

②福祉資金の貸付

低所得世帯や障がい者世帯等に対して、自立更生や生活の安定を図るための貸付の相談・支援を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数 (延べ)	1,896 件	1,386 件
申請件数	32 件	18 件
貸付総額	4,381,000 円	2,153,000 円

③教育支援資金の貸付

一定の所得以下の世帯に対して、学校教育法に定められた高等学校、大学などへの進学や通学に必要な経費の貸付の相談・支援を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数 (延べ)	5,175 件	6,103 件
申請件数	232 件	229 件
貸付総額	164,525,000 円	129,933,000 円

④不動産担保型生活資金の貸付

高齢者世帯及び要保護高齢者世帯に対して、居住用不動産を担保とした生活資金の貸付の相談・支援を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数 (延べ)	72 件	73 件
申請件数	2 件	1 件
貸付限度額	9,870,000 円	15,360,000 円

⑤臨時特例つなぎ資金 (県社協受託事業)

離職者を支援するための公的給付制度、又は公的貸付制度を申請している住居のない離職者に対して、当座の生活費の貸付の相談・支援を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数(延べ)	5 件	0 件
申請件数	0 件	0 件
貸付総額	0 円	0 円

(2) 特例貸付フォローアップ支援事業（県社協受託事業）

特例貸付の借受人に対するフォローアップ支援（生活相談、償還免除及び償還猶予の申請支援等）を実施した。

【延べ相談件数】	872 件（令和 5 年度：725 件）
【主な相談概要】	償還猶予・免除について 326 件
	償還状況、償還残額等について 25 件
	他貸付制度に関する相談 19 件
	その他（住所変更、手続き等） 502 件

(3) 福祉資金の貸付

低所得世帯の福祉増進を図るため、生活に必要な小口資金の貸付を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
貸付件数	319 件	533 件
貸付総額	5,206,500 円	8,540,000 円

(4) 修学旅行費貸付事業

低所得世帯の福祉増進を図るため、中学校修学旅行費の貸付を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
貸付件数	10 校／23 人	11 校／31 人
貸付総額	1,607,850 円	2,040,650 円

9. 障がい福祉事業

障がい児・者やその家族を支援するために、一時預かり事業や就労支援事業等を実施した。

(1) 地域活動ホーム運営事業

障がい児者や家族の生活支援を目的に、湘南台の地域活動ホームで一時預かり事業を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
登録者数（年齢層）	15 人（3 歳～47 歳）	14 人（11 歳～46 歳）
年間利用人数（延べ）	280 人	392 人

(2) 就労支援売店運営事業

障がい者の就労を通じた社会参加の場として、市営斎場内の売店の運営を行ってきたが、コロナ禍を経て、通夜・告別式等葬儀や法事の規模の縮小・簡略化等の影響により、売上の減少とともに仕事量が減少し、障がい者の就労支援事業の本来の目的を果たせない状況となり、令和 6 年度をもって就労支援売店事業は撤退することとなった。

なお、障がい者の就労を通じた社会参加の場は、地域物流・交流拠点に移した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
運営体制 (延障がい者数)	6 人 (3 人)	6 人 (6 人)

(3) 藤沢市ふれあい実行委員会事業の支援

障がい者週間にあたる 12 月 7 日、障がいの有無に関らず誰もが楽しめるイベントとして、ふれあい実行委員会主催「藤沢ふれあいフェスタ 2024」を、藤沢市障がい者支援課が主体の事務局となり実施した。市役所分庁舎 1, 2 階地域福祉プラザと本庁舎を会場に開催され、介助犬のデモンストレーションや車いす体験、手話やアイマスクの誘導體験等を、ボランティアの協力も得て実施することができた。当日のボランティアとしての参加については、内容を 4 つのカテゴリー分けをしてチラシを作成し募集を行い、事前説明会と合わせ「障がいの学びを深める勉強会」も実施し、安心して活動でき当日有意義に活動できるよう配慮し、好評を得た。



10. 包括的な相談支援・社会的孤立等支援事業

(1) 生活困窮者自立相談支援事業 (市受託事業)

今年度は、CSW が市内全地区に配置されて 5 年目、重層的支援体制整備事業も 2 年目となり、包括的相談支援体制整備、参加支援事業、地域づくり事業を一体的に実施するため、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の支援会議、参加支援・多機関協働事業の重層的支援会議を活用し、行政と意見交換を重ねながら実施した。



【遠藤地区：拡大版遠藤見守りネットワーク】



【湘南大庭地区：市民センターにある相談窓口の看板 (地域の方がリニューアル)】



【善行地区：地区社協主催しめ飾りづくり】

①CSW の相談支援・対応

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度	
相談件数／延べ相談件数		888 件／16,851 件	1,017 件／17,601 件	
内 訳	地区別	鶴沼	57 件	66 件
		六会	87 件	91 件
		湘南大庭	94 件	79 件
		村岡	57 件	61 件
		長後	116 件	120 件
		辻堂	68 件	90 件
		善行	83 件	96 件
		御所見	33 件	45 件
		片瀬	45 件	94 件
		明治	64 件	62 件
		遠藤	56 件	50 件
		藤沢	82 件	101 件
		湘南台	46 件	62 件
地域活動への参加支援		6,223 回	6,068 回	

②生活困窮者自立支援（CSW（バックアップふじさわ社協））

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数（内自立相談支援プラン作成）	888 件（560 件）	1,017 件（353 件）

【アウトリーチ等を通じた継続的支援】

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数（内プラン作成）	37 件 （新規 13 件 再プラン 38 件 終結 1 件）	11 件 （新規 11 件 再プラン 4 件）

【参加支援事業】

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
内プラン作成件数	（新規 10 件 再プラン 26 件 終結 1 件）	（新規 10 件 再プラン 6 件 終結 1 件）

【多機関連携支援】

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数 （内プラン作成）	1 件 （新規 2 件 再プラン 2 件 終結 1 件）	2 件 （新規 1 件 再プラン 0 件）

③専門家による相談実績

区 分	令和 6 年度		令和 5 年度	
相談件数	23 件		24 件	
相談種別	法律関係	8 件	法律関係	7 件
	ひきこもり関係	13 件	ひきこもり関係	13 件
	精神保健関係	1 件	精神保健関係	3 件
	生活設計関係	1 件	生活設計関係	1 件

(2) 社会的孤立等生活支援事業

①『自動車運転免許取得支援事業』

就職して児童養護施設の退所を控えている方等へ、市内の(株) キャリアドライブ藤沢高等自動車学校と協力して自動車運転免許取得費用を給付し、社会人のスタートを応援する事業であるが、今年度は該当者なし。

②『上履きプレゼント』

フードバンクふじさわの利用者や CSW 等の相談者であるひとり親や生活困窮世帯の小中学生を対象に、「進級・進学おめでとう！上履きプレゼント」を、ユーコープ湘南辻堂駅前店・ミアクチーナ長後駅前店・湘南台店にて実施されたスタディ・ドライブ(家庭で眠っている文具の寄付を募り、必要な人たちに届ける仕組み)の文具も併せて提供した。

区 分		令和 6 年度		令和 5 年度	
利用者数		195 人	121 世帯	153 人	97 世帯
内 訳	小学生	111 人		95 人	
	中学生	84 人		58 人	

③『子どもの成長を祝うプロジェクト』

七五三プロジェクトは、市民センターを会場に、地域のボランティアの協力のもと、CSW が支援している家庭 1 組に対し、着物類の提供、当日の着付け・メイク・ヘアメイク・写真撮影を行った。



ボランティアさんにありがとう！



七五三プロジェクト写真撮影

成人式プロジェクトは、バックアップふじさわやCSW及び学習支援事業所が支援している家庭3組に対し、市民センターや市役所分庁舎1階の会議室を会場に、地域のボランティアの協力のもと実施した。

参加者からは、諦めていたことが実現され、思いがけず一生の思い出となったと喜びの声が聞かれ、ボランティアの方たちからも、今後も継続して協力していきたいとの感想を得た。

【協力ボランティア】地区ボランティアセンターや民生委員児童員等の地域の活動者（遠藤地区）・マイミライネクスト（湘南大庭地区）・藤沢理美容協会他

【会場の協力】湘南大庭市民センター・遠藤市民センター



地域のボランティアさん



社協職員からおめでとう！



理美容協会のみなさん



④『教育支援資金貸付時合格お祝い事業』

生活福祉資金（教育支援資金）の貸付手続きを行う中学生、高校生に対し、無印良品Fuji 善行と連携し、記念品と企業・市社協からのお祝いメッセージを渡し、門出を祝うとともに、生活の困りごとがあった時に気軽に相談できる機関としての周知を行った（高校進学24人、大学・専門学校進学52人）。



⑤『小中高校生長期休み時の居場所・学習・食の支援事業』

夏休み7日間、春休み3日間、分庁舎2階活動室3・4の空き室や、地域の居場所等を活用し、小学生から高校生を対象に居場所・学習の場の提供、障がい福祉事業所と連携した食の支援、ボランティア体験等を実施した。年齢の近い高校生・大学生を主としたボランティアも募集し、事業企画の段階から参加してもらい、10時～19時の長時間を職員とともに子どもの見守り・学習

支援・ボランティア体験同行等、子ども達と多くの時間を共有した。
CSW が支援している世帯の子どものほか、市内学習支援を利用している子どもが参加し、中には不登校の子どもの参加もあった。ボランティアや他の子どもたち、地域の方との交流を通じて子どもたちの成長を感じることができた。

区 分	令和 6 年度		令和 5 年度	
	夏休み	春休み	夏休み	春休み
利用者数	13 人(延 52 人)	6 人(延 17 人)	8 人(延 27 人)	12 人(延 37 人)

【食事の提供の協力（敬称略）】

らいくみーこむ・Nico's Kitchen・喫茶ポトピ・長後あかり・カフェふもあ

【ボランティア活動等の協力（〃）】

湘南マンドリンアンサンブル・テラスティピィ・海の家「かもめ&ボサノバ」・栄湯湘南館
学校法人新堀学園・ふるうつらんど井上

令和 6 年度 小中高校生対象長期休みの憩場所、学習、食、就労体験等事業 **参加無料**

春休み居場所企画

3/25(火) 13:00~19:00
26(水)・28(金) 10:00~19:00

対象・定員 小・中・高校生 1日あたり10名(先着順)
会場 藤沢市役所分庁舎 2階 活動室3・4

おしゃべりしたり、ゲームしたり、勉強したり、本を読んだり、自由に過ごせる場所です。ボランティアや職員が子ども達と一緒に過ごします。

【ボランティア体験】
日時:3月28日(金) 11:30~18:00
場所:1 栄湯湘南館(六会日大前駅東口徒歩5分)
2 ふるうつらんど井上(長塚駅徒歩15分)

【食事】 昼 12:00から 夜 17:00から (無料、申込時に予約が必要です。)

【お申し込み】 藤沢市社会福祉協議会 地域福祉課
☎47-8131 ☓csw@fujiisawa-shakyo.jp 申込期間 2月12日(月)~3月18日(火)

① 保護者氏名 ② 電話番号 ③ お子様の氏名・学年・性別 ④ 参加希望日
⑤ 食事の予約有無 ⑥ 来場手段 ⑦ 紹介を受けた支援機関 ⑧ 緊急連絡先 ⑨ お知らせください
※自力での来所が難しいお子様で、ご家族や支援者による送迎も御座います。ご相談ください。

協力: Nico's Kitchen、社会福祉法人びほり、喫茶ポトピ、栄湯湘南館、ふるうつらんど井上



ボランティアと共に



⑥ウクライナ避難民支援事業

市との協働による、市内で暮らすウクライナ避難民への生活支援については、今年度は実績なし。

1.1. 生活支援コーディネーター（第1・2層）事業（市受託事業）

市域を活動エリアとする第1層生活支援コーディネーターと、13地区別の第2層生活支援コーディネーターを兼務するCSWが、地域共生社会の実現を目指した地域づくりを基盤とした取り組みを行った。特に、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を目前に控え、行政サービスのみならず、NPO、ボランティア、民間企業等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築しながら、高齢者の社会参加をより一層推進することを通じて、高齢者が社会的役割をもつことで、生きがいや介護予防にもつなげる取り組みを地域住民や関係機関と協働して行った。

①社会資源の実態や支援ニーズの把握

各地域の介護予防及び地域の縁側等の生活支援サービス等を実施している団体・組織を訪問し、情報交換、活動状況の把握、講師対応等を行った。13地区ごとに、高齢者に特化した社会資源を把握してまとめ、図式化し、今後の展開を考える地区アセスメント表を作成した。

区 分	令和6年度	令和5年度
調査訪問回数	55回	90回

②ネットワーク構築のための各種会議の参加

藤沢型地域包括ケアシステム推進に向けた各種会議、地域の課題へ取り組む郷土づくり推進会議、地域ケア会議等に参加し、地域ごとのネットワーク構築を進めた。

区 分	令和6年度	令和5年度
参加等回数	55回	69回

③協議体等、新たな生活支援サービスの創出や運営支援の実施

生活支援体制整備事業の主体的な役割を担う各地区協議体では、各地区課題解決への活動の方向性、地区ごとの交流会や拡大会議等具体的な取り組みを進めた。また、生活支援コーディネーター連絡会は、ささえあいセンターの第2層生活支援コーディネーターを中心に定例的に開催し情報交換、連携を深めた。

区 分	令和6年度	令和5年度
活動回数	286回	237回

④資源開発（サービス・支援の担い手の養成）

開催支援、認知症、地域ケア会議、地域づくり等をテーマとした講話を担当した。

区 分	令和6年度	令和5年度
講座・セミナーの開催等	8回 75人	2回 80人

⑤第2層生活支援コーディネーターによる共助の基盤づくり

13地区に、CSWとの兼務として第2層生活支援コーディネーター13人を配置し、地区社協、自治町内会、地区ボランティアセンター、地域の縁側、郷土づくり推進会議等の地域団体の活動への参加、連携及び支援等を行った。

区 分	令和6年度	令和5年度
地域活動支援	6,223回	6,068回

12. あんしんセンター事業（権利擁護事業）

(1) 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

高齢者や知的・精神に障がいのある方などで、判断能力が不十分な人が日常生活を送る上で自ら福祉サービスの利用手続や日々の金銭管理が十分にできない場合に、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「福祉サービス利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「書類等預かりサービス」による支援を実施した。

①相談問い合わせ件数

区 分		令和6年度	令和5年度
件数合計		8,728件	7,752件
内訳	認知症高齢者	2,573件	2,500件
	知的障がい者	1,244件	784件
	精神障がい者	3,711件	2,985件
	身体障がい者	113件	144件
	その他	1,087件	1,339件

②新規利用相談人数

区 分	令和6年度	令和5年度
合 計	106人	109人

③契約件数

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度
合 計 (新規／継続)		167 件 (37 件／130 件)	167 件 (27 件／140 件)
内訳	認知症高齢者	55 件	60 件
	知的障がい者	22 件	19 件
	精神障がい者	66 件	64 件
	身体障がい者	3 件	3 件
	その他	21 件	21 件

④終了件数

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
終了件数	28 件	37 件
内 訳	・本人申出 10 件	・本人申出 5 件
	・施設入所(市外含む) 8 件	・施設入所(市外含む) 5 件
	・死亡 4 件	・死亡 8 件
	・法定代理人の選任 3 件	・法定代理人の選任 13 件
	・他市への転居 3 件	・契約変更 1 件
		・他市への転居 1 件
		・親族管理 4 件

(2) 成年後見事業

成年後見制度の普及啓発を図るための事業や、制度利用等に関する一般相談及び専門職による定例相談・出張相談を実施するとともに、地域関係機関と連携して地域における権利擁護の在り方や制度の利用促進等に係る協議を進めた。

①成年後見制度の普及啓発（市民講座の開催）

【第 1 回】

テーマ	親あるいま 聞いてみよう ～成年後見制度の体験談～ 《第 1 部》①障がいのある子どもの後見申立てをした母親のお話 ②成年後見人がついている当事者のお話 《第 2 部》弁護士による成年後見制度の解説 《第 3 部》アンケート票による質疑応答
開催日時	10 月 4 日(金) 13:00～15:00
場 所	藤沢商工会館ミナパーク 6 階 多目的ホール
講 師	当事者、当事者家族、支援関係者、弁護士 内嶋 順一 氏
参加者数	91 人／定員 80 人



受講中の様子

鹿児島市主催 市民講座

**親あるいま聞いてみよう
成年後見制度の体験談**

第1部：成年後見制度利用者の体験談
① 障がいのある子どもの後見申立てをした
母親のお話
② 成年後見人がついている当事者のお話

第2部：成年後見制度の解説
講師 弁護士 内嶋 順一 氏

第3部：質問コーナー
アンケート票による質疑応答

2024年10月4日(金)

日 時：午後1時～午後3時

会 場：鹿児島商工会館ミナパーク6階
多目的ホール3

定 員：80名

申込み：9月17日(水)9時から受付開始
電話またはFAXにてお申込みください。
※FAXの方は裏面を添付ください
※先着順で定員になり次第、締め切らせていただきます。

【問合せ先】鹿児島社会福祉協議会ふじさわあんしんセンター
電話：0466(55)3055
平日午前9時～午後5時

本講座は上記法人のご協力により開催します

周知用チラシ

【第2回】

テーマ	成年後見制度 ～申立書って、どう書くの？～ 申立書の書き方や必要書類の集め方の解説
開催日時	3月1日(土) 13:30～15:30
場 所	市役所分庁舎1階 社会福祉協議会 会議室
講 師	司法書士 門田 渉 氏
参加者数	22人/定員20人

鹿児島市主催 市民講座

**成年後見制度
～申立書って、どう書くの？～**

「成年後見制度」を利用するためには、
「家庭裁判所への申立書」が必要になります。
成年後見制度のエキスパートが申立てに必要な書類から
書き方まで、まるごとわかりやすく解説します。

2025年3月1日(土)
午後1時30分～3時30分

講 師：司法書士 門田 渉 氏

会 場：鹿児島市役所分庁舎1階
鹿児島社会福祉協議会 会議室
(順車に事前予約が必要です)

定 員：先着20名

申込み：2月17日(月)9時から受付開始
電話またはFAXにてお申込みください。
※FAXの方は裏面を添付ください
※定員になり次第、締め切らせていただきます。

【問合せ先】鹿児島社会福祉協議会ふじさわあんしんセンター
電話：0466(55)3055
平日午前9時～午後5時

周知用チラシ

②成年後見制度の利用支援等

ア. 一般相談及び定例専門相談

区 分		令和6年度	令和5年度
一般相談件数(延べ)		2,092件	1,905件
内訳	高齢者	661件	590件
	知的障がい者	383件	426件
	精神障がい者	940件	871件
	身体障がい者	8件	2件
	その他	100件	16件
専門相談件数(延べ)		72件	71件
内訳	弁護士	27件	27件
	税理士	6件	7件
	司法書士	20件	20件
	行政書士	11件	13件
	社会福祉士	8件	4件

※令和6年度は、明治及び村岡地区内の自治会町内会に権利擁護相談のチラシ回覧を依頼するなど周知の拡大を図った。

イ. 出張専門相談

【開催回数】 3回 (令和5年度 3回)

【相談件数】 16件 (令和5年度 16件)

[内訳] 6月29日(土) やすらぎ荘(司法書士・行政書士) 5件

11月9日(土) かわうそ(弁護士・社会福祉士) 5件

2月15日(土) 市役所分庁舎(司法書士・行政書士) 6件

③地域関係機関との連携

ア. 藤沢市権利擁護ネットワーク連絡会

権利擁護に係る関係機関等との連携を深め、地域における権利擁護の在り方等についての協議・検討、及びあんしんセンター事業の実績報告に基づく意見交換等を行った。

【開催回数】 3回 (6月13日(木)、10月3日(木)、2月6日(木))

イ. 中核機関運営会議

権利擁護支援の推進に向けて、中核機関としてのあんしんセンターの取り組み等について協議を行った。

【開催回数】 3回 (6月13日(木)、10月3日(木)、2月6日(木))

ウ. 横浜家庭裁判所ヒアリング

横浜家庭裁判所において、裁判所書記官、県・市職員、県社協職員同席のもと、中核機関に関する現状や課題等について意見交換を行った。

【開催回数】 2回 (5月23日(木)、12月17日(火))

④法人後見業務の推進

法人後見業務については、市長申立てにより受任したケースや日常生活自立支援事業利用者が判断能力の低下により法人後見に移行したケース等の生活支援や財産管理を実施した。

区分	令和6年度	令和5年度
受任件数	15件	16件
新規件数	0件	2件
内訳	後見	0件
	保佐	0件
	補助	2件
終了件数	1件	0件

⑤成年後見制度利用促進事業

成年後見制度の利用を含む総合的な権利擁護支援の推進に向けて、中核機関が担う機能に基づく広報活動等を実施した。

ア. パンフレット等の配布

成年後見制度等の普及啓発の一環として、あんしんセンターの事業案内パンフレットや専門相談チラシ等を市内関係機関等に配布した。

イ. 講師派遣等

あんしんセンター職員が、講師として地区老人会や保護司会等に出向き、権利擁護に関する制度説明や情報提供を行った（延べ9回、参加者71人）。

(3) 日常生活自立支援事業契約締結審査会・法人後見業務適正審査会

両審査会は審査事項等において関連があり、また、法人後見業務適正審査会では必要に応じてあんしんセンターの運営に関して指導や助言等を求めることができることから、一体的運営を図るため同日に開催した。

区 分	令和6年度	令和5年度
開催回数	6回	6回
審査件数(延べ)	48件	43件
(内訳)日常生活自立支援事業	47件	41件
法人後見業務	1件	2件

(4) 市民後見事業

①市民後見人養成講座

第7期となる養成講座を実施した。県社協が開催する説明会及び基礎研修については、原則としてオンラインで一定期間中に動画を視聴する形式とし、基礎研修に続く実践研修及び支援員研修については、対面方式で実施し最終的に7人が修了となった。



第7期修了生

「広報ふじさわ」掲載記事

②市民後見人フォローアップ研修

市民後見人候補者バンク登録者の資質向上を図るため、専門職（社会保険労務士、社会福祉士、弁護士）に講師を依頼し、障害年金や意思決定支援の取り組みなど実務に即した学び直しの機会を提供した。

区 分	内 容
開 催 日	①5月25日(土)、②9月21日(土)、③1月25日(土)
場 所	藤沢市社会福祉協議会 会議室
参加者数(延べ)	28人

③後見人等受任調整会議等

市民後見人候補者バンク登録者を、後見人候補者として家庭裁判所に推薦するために市民後見人受任調整会議を開催した。

【受任調整会議の実績】

区 分	令和6年度	令和5年度
開催回数	2回	3回
推薦者数	2人	3人

【市民後見人の活動実績】

区 分	令和6年度	令和5年度
総活動者数	14人	13人
年度末の活動者数	11人	12人

【市民後見人候補者バンク登録者数】

区 分	令和6年度	令和5年度
登録者数	13人	14人

(5) 権利擁護支援事業

法人後見報酬の適正な活用方法として、権利擁護の立場から、成年後見制度の申立てが必要な状況であるにも関わらず、家庭環境、事務能力、経済的な理由等により、家庭裁判所に申し立てることが困難な方に対して、申立手続に関する支援及び費用の助成を行った。

【成年後見制度申立てに関する助成実績】

区 分	令和6年度	令和5年度
申立費用助成	2人	3人
専門職報酬助成	2人	2人

(6) 緊急的な場面における生活支援事業（令和6年度に緊急事務管理事業から改称）

判断能力が十分でないにも関わらず、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の既存の支援制度が利用できていない方に対する取り組みとして、緊急的に期限を設け、日常生活に必要な金銭管理や財産保管等の支援を行った。

【受託実績】

区 分	令和6年度	令和5年度
受託件数(延べ)	31件	20件
新規件数	11件	15件
終了件数	18件	10件

13. 在宅福祉事業

(1) 自主事業（ホームヘルプサービス）

介護保険制度や障害者総合支援制度、又は市の生活支援型のホームヘルプサービスの対象とならない世帯（産褥期・母子・父子等を含む）や、これらの制度の対象であっても、制度の条件に該当しない支援を必要とする世帯に、ホームヘルパーを派遣し、家事援助等のサービス提供を実施した。

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	12人	13人
派遣回数(延べ)	171回	217回
派遣時間(延べ)	54.25時間	102.0時間

(2) 公的介護事業（ホームヘルプサービス）（市受託事業）

①生活支援型ホームヘルパー派遣事業（令和6年度で終了）

介護保険の要介護認定及び介護予防・日常生活支援総合事業の基本チェックリストにおいて非該当とされ、日常生活を営むのに支障のある65歳以上の在宅要援護高齢者等に、ホームヘルパーを派遣し、家事援助等のサービス提供を行い、要支援・要介護状態等への進行予防を図った。

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	1人	1人
派遣回数(延べ)	45回	49回
派遣時間(延べ)	45時間	49時間

②ひとり親家庭日常生活支援事業

ひとり親家庭等を対象にホームヘルパーを派遣し、家事援助等のサービス提供を行った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	2 人	7 人
派遣回数 (延べ)	13 回	46 回
派遣時間 (延べ)	17 時間	62.25 時間

③子育て世帯訪問支援事業 (一部新)

育児等の支援が必要な家庭を対象にホームヘルパーを派遣し、家事援助等のサービス提供を行った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	7 人	3 人
派遣回数 (延べ)	191 回	51 回
派遣時間 (延べ)	296 時間	71 時間

④精神障がい者地域移行体験利用事業

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	0 人	0 人
派遣回数 (延べ)	0 回	0 回
派遣時間 (延べ)	0 時間	0 時間

⑤共生型ホームヘルプサービス事業 (新規)

今年度の実績はなし。

(3) 在宅福祉サービスセンター管理運営事業 (市受託事業)

各種公的在宅福祉サービス事業等が、より市民の立場に立った利用しやすいものとなるよう、相談・調整等のコーディネート業務を行うとともに、地区福祉相談窓口研修で各事業説明を実施した。

①緊急通報システム事業 (市受託事業)

65 歳以上の高齢者等で、慢性疾患等により日常生活に不安がある方に緊急通報装置を設置することにより、自立した安全な在宅生活の支援を行った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	934 人	891 人
緊急通報件数	75 件	52 件
相談通報件数	154 件	180 件
安否確認件数	12,596 件	11,446 件

②寝具乾燥消毒サービス事業

65 歳以上の寝たきり高齢者等に対し、寝具の丸洗い、消毒、乾燥のサービスを提供し、快適な日常生活の維持を図った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	139 人	127 人
利用枚数(延べ)	2,153 枚	2,181 枚

③一時入所事業（ショートステイ）

65 歳以上高齢者を介護している家族が、疾病等により一時的に介護できないときに、施設において介護を実施した。

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度
生活支援型	実利用者数	2 人	1 人
特 養	利用日数(延べ)	8 日	1 日
生活管理支援型	実利用者数	34 人	29 人
養 護	利用日数(延べ)	376 日	262 日

④紙おむつ支給事業

在宅において、寝たきりや認知症等のため常時おむつ使用が必要な要介護 4 以上の認定を受けた 40 歳以上の方（本人合計所得 400 万円未満の方）、及び要支援 1 から要介護 3 までの認定を受けた市民税非課税世帯の 65 歳以上の高齢者に対して、紙おむつを支給し、経済的負担及び介護負担の軽減を図った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	1,497 人	1,402 人
支給件数(延べ)	37,992 件	36,415 件

⑤徘徊高齢者対策事業

徘徊高齢者の早期発見と保護を目的として、警察、消防署、タクシー協議会等の関係機関と連携を取りながら捜索を行い、特別養護老人ホームで一時保護することにより、徘徊高齢者の生命の安全を図った。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実登録者数	146 人	146 人
通報件数	2 件	1 件

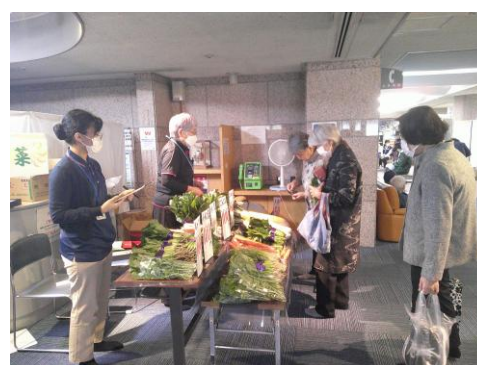
1.4. 老人福祉センター運営事業（指定管理事業）

老人福祉センターとしての機能を維持しながら、地域福祉推進の拠点となるいきいきシニアセンター（藤沢市老人福祉センター）の指定管理者第2年度として、施設利用の利便性の向上と地域交流、継続的な健康維持増進を目的とした主催事業を実施した。令和5年度新規に取り組んだ各種事業（設備含む）は、利用者調査等を参考としながら、利用の定着と普及啓発を図った。また、障がい者団体との連携による弁当販売の実施や、地域団体との協働による子ども食堂の定期的な開催も継続し、地域福祉の推進に寄与した。

コロナ禍の影響によって減少していた一般利用人数も徐々に増加しており、これに伴って参加機会としての主催事業も回数を増加させ、延べ利用人数は3センター合計で前年度比7.5%増加し、浴室利用人数も8.4%増加した。



湘南なぎさ祭り 世代間交流



湘南なぎさ荘 野菜マルシェ

【利用者数（延べ）】※運営日数 303 日

区 分	令和6年度	令和5年度
やすらぎ荘	38,852 人	39,230 人
湘南なぎさ荘	44,596 人	41,177 人
こぶし荘	71,512 人	63,714 人
合 計	154,960 人	144,121 人

【健康相談利用者数（延べ）】（看護師等の相談：原則毎日）

区 分	令和6年度	令和5年度
やすらぎ荘	2,705 人	2,221 人
湘南なぎさ荘	9,269 人	7,324 人
こぶし荘	5,778 人	4,659 人
合 計	17,752 人	14,204 人

【事業回数・参加者数（延べ）】（※自主介護予防事業を含む）

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
やすらぎ荘	449 回 / 7,001 人	395 回 / 3,995 人
湘南なぎさ荘	817 回 / 9,193 人	679 回 / 4,726 人
こぶし荘	720 回 / 17,716 人	472 回 / 6,751 人
合 計	1,984 回 / 33,892 人	1,546 回 / 15,472 人

【浴室利用者数（延べ）】（※予約制で実施）

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
やすらぎ荘	12,651 人	13,206 人
湘南なぎさ荘	11,631 人	9,121 人
こぶし荘	17,958 人	16,632 人
合 計	42,240 人	38,959 人

【運動浴室利用者数（延べ）】（※やすらぎ荘は運動浴室設備無し）

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
湘南なぎさ荘	7,102 人	5,824 人
こぶし荘	14,021 人	12,401 人
合 計	21,123 人	18,225 人

15. 居宅介護等事業

（1）訪問介護事業

- ①介護給付対象者である高齢者等の家庭にホームヘルパーを派遣し、食事、排泄、入浴等の身体介護と炊事、洗濯、掃除等の生活援助のサービスを実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	55 人	57 人
派遣回数（延べ）	3,101 回	3,587 回
派遣時間（延べ）	3,301.25 時間	3,744.25 時間

- ②介護予防訪問型サービス対象者等（要支援 1, 2・事業対象者）の家庭にホームヘルパーを派遣し、食事、排泄等の生活活動の支援を行い、生活機能の低下防止を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
実利用者数	99 人	109 人
派遣回数（延べ）	4,647 回	4,675 回
派遣時間（延べ）	3,608 時間	3,730.5 時間

16. 障がい者総合支援事業

障害者総合支援法に基づいた、居宅介護の障がい福祉サービスを実施した。また、障がい福祉サービス計画の作成や生活全般の相談支援を実施した。

(1) 居宅介護等事業

障がい児者等にホームヘルパーを派遣し、身体介護や家事援助等の支援や視覚障がい者への外出活動等の支援を実施した。

①居宅介護事業

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	116人	136人
派遣回数(延べ)	6,859回	8,070回
派遣時間(延べ)	8,035.5時間	9,302.75時間

②重度訪問介護事業

区分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	6人	6人
派遣回数(延べ)	1,289回	1,411回
派遣時間(延べ)	2,073.5時間	2,333.5時間

③同行援護事業

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	12人	11人
派遣回数(延べ)	325回	338回
派遣時間(延べ)	463.5時間	547時間

④移動支援事業

屋外での移動に困難がある障がい児者の外出及び、地域での自立生活や社会参加の支援を実施した。

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	26人	33人
派遣回数(延べ)	820回	969回
派遣時間(延べ)	700.5時間	850.25時間

(2) 相談支援事業

指定特定相談支援事業者として、障がい福祉サービス利用等についての相談やサービス利用計画の作成や障がい者支援区分認定調査等の支援を実施した。

区 分	令和6年度	令和5年度
実利用者数	57人	66人
調査件数(延べ)	35件	75件

17. 災害活動関連事業

藤沢市災害救援ボランティアセンター設置・運営に関する協定を基軸に次の取り組みを行った。

①災害救援ボランティアセンターの設置運営訓練

2月20日にFSV、藤沢市（保険年金課、福祉総務課）、市社協合同による図上訓練を行い、同センターの設置を予定している市役所分庁舎1階フロア、分庁舎正面広場の立地条件等確認を行った。

②災害ボランティアの養成

別掲

③能登半島地震被災地支援

石川県七尾市及び能登町社協が運営する災害ボランティアセンターへ応援職員3人を派遣した。

- ・七尾市災害ボランティアセンター（4/21～4/27：1人）
- ・能登町災害ボランティアセンター（5/27～6/2：1人、6/20～6/26：1人）

④神奈川県地域防災計画に基づく情報伝達訓練への参加

- ・12月13日実施

⑤神奈川県社会福祉協議会主催による災害ボランティアセンター運営報告及び県災害ボランティア支援センター支援報告の共有を目的とした担当者会議に参加

- ・2月12日実施

18. 会の運営

(1) 会員加入と会費の状況

区 分	令和6年度	令和5年度
正会員(@1,000円)	539件 / 716,000円	533件 / 772,000円
賛助会員(@1,000円)	159件 / 700,000円	136件 / 589,000円
地 区 社 協	14地区 / 850,000円	14地区 / 850,000円
合 計	712件 / 2,266,000円	683件 / 2,211,000円

(2) 寄附金品の状況

区 分		令和6年度	令和5年度	
一 般	個人	件数	8件	8件
		金額	2,620,000円	1,037,680円
	団体	件数	10件	12件
		金額	262,919円	961,997円
善 意 銀 行	個人	件数	0件	0件
		金額	0円	0円
	団体	件数	1件	0件
		金額	55,716円	0円
物 品	個人	件数	2件	1件
		内容	江ノ島スパ優待券・大人用 オムツ他	江ノ島スパ優待券
	団体	件数	9件	8件
		内容	プロスグッズ・車イス・お米・落 語チケット・お菓子・カレンダー・ 手帳他	タオル・車イス・お米・落語チケッ ト・お菓子・カレンダー・手帳 他

(3) 理事会の開催 (4回)

区 分	議 題
第1回 (5/31)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業報告並びに決算について 令和6年度資金収支補正予算(第1号)について 令和6年度定時評議員会の招集について 評議員選任候補者の推薦について
第2回 (7/1)	<ul style="list-style-type: none"> 本協議会副会長の選定について
第3回 (10/25)	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度被表彰者について 令和6年度資金収支補正予算(第2号)について 令和6年度第2回評議員会の招集について

第4回 (3/19)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度資金収支補正予算（第3号）について ・福祉資金貸付事業における借受人の返済免除について ・令和7年度事業計画並びに資金収支予算について ・本協議会経理規程の一部改正について ・本協議会理事会の業務並びに会長等の専決事項等に関する定款施行細則の一部改正について ・令和7年度役員等賠償保険の契約について ・令和6年度第3回並びに第4回評議員会の招集について
---------------	---

(4) 評議員会（4回）

区 分	議 題
第1回(定時) (6/18)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業報告並びに決算について ・令和6年度資金収支補正予算（第1号）について ・理事の選任について
第2回 (10/25)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度資金収支補正予算（第2号）について
第3回 (3/24)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度資金収支補正予算（第3号）について
第4回 (3/27)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度資金収支補正予算（第4号）について ・令和7年度事業計画並びに資金収支予算について

(5) 監事監査（1回）

5月16日（木）

(6) 理事・監事・評議員合同研修会・意見交換会

①研修会 10月25日（金）

②意見交換会 12月10日（火）

19. その他の実績

(1) 外部委員会等への参加実績

市の「地域福祉計画推進委員会」や県社協の「市町村社協部会会長・事務局長会」など、各種委員会や会議体等への参加協力を行った。

区 分	令和6年度	令和5年度
会議・委員会等の数	144	150
参加回数／人数(延べ)	507回／699人	555回／732人

(2) 職員派遣の実績

市主催研修や地域活動団体等からの依頼により職員を講師として派遣した。

区 分	令和6年度	令和5年度
派遣回数	50回	102回
派遣職員数	150人	131人

(3) 実習生受入の実績

看護専門学校生徒の実習受入や、大学生の社会貢献活動実習、高校生の職場体験など実習生の受入を行った。

区 分	令和6年度	令和5年度
受入件数	14件	16件
受入人数(延べ)	231人	256人

20. 団体業務

(1) 日本赤十字社神奈川県支部藤沢市地区事務局

①日本赤十字社社員増強運動の実績

区 分	令和6年度	令和5年度
目 標 額	24,454,000円	24,454,000円
実 績 額	16,980,237円	18,134,882円

②火災等の災害見舞金の支給実績

区 分	令和6年度	令和5年度
全 焼	4件 / 80,000円	1件 / 20,000円
半 焼	2件 / 30,000円	1件 / 5,000円
水 損	0件 / 0円	0件 / 0円

③地域の自主防災活動への助成事業

区 分	令和6年度	令和5年度
助成件数	14団体・14事業	12団体・12事業
助成総額	1,500,000円	1,500,000円

(2) 神奈川県共同募金会藤沢市支会事務局

共同募金運動の実績

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度
赤い羽根募金	目標額	31,600,000 円	31,670,000 円
	実績額	21,236,115 円	22,126,605 円
年末たすけあい募金	目標額	12,000,000 円	12,000,000 円
	実績額	11,015,251 円	11,214,066 円
実 績 合 計 額		32,251,366 円	33,340,671 円

(3) 藤沢市遺族会事務局

戦没者慰霊祭や研修会等の各種事業を実施した。

①各種委員会の開催

◇理事会 3回 ◇常任理事会 2回

②主な行事等の開催や参加

◇遺族会研修（靖国神社参拝）の開催

◇神奈川県戦没者追悼式、藤沢市戦没者追悼式に参加

◇戦没者慰霊祭（遊行寺）の挙行

(4) 藤沢市更生保護女性会事務局

更生保護活動推進のための事務局を担当した。

各種委員会等の開催

◇役員会 9回 ◇理事会 9回

(5) 藤沢市地区社会福祉協議会連絡協議会事務局

各地区社協相互間及び市社協との連携・協力のための事務局を担当した。(別掲)

(6) 藤沢市地域公益事業推進法人協議会事務局

社会福祉法人が連携して「地域の公益的な取り組み」を進めるための事務局を担当した。(別掲)

(7) ふじさわ福祉 NPO 法人連絡会事務局 (休止中)

(8) 藤沢地区保護司会事務局

犯罪をした者等や非行のある少年の更生を助け、犯罪予防のための啓発活動に努める等、個人及び公共の福祉に寄与するための事務局を担当した。

①主な会議等

◇総会 1回 ◇理事会 8回 ◇各部会 22回 ◇処遇会議 7回

◇社会を明るくする運動推進委員会 6回

②主な事業等

- ◇第74回社会を明るくする運動 藤沢地区大会（新規）
- ◇サポートセンター開館 164日
- ◇観察官定期常駐 12回

(9) 藤沢市老人クラブ連合会（ゆめクラブ藤沢）事務局

各地区の活動の充実を図り、高齢者の健康維持と生活の安定向上、福祉増進に寄与するための事務局を担当した。

①主な会議等

- ◇総会 1回
- ◇正副会長会 11回
- ◇常任理事会 11回

②主な事業等

- ◇総会 4月17日
- ◇藤沢市高齢者福祉大会 7月12日
- ◇新任会長研修会 5月14日・10月23日
- ◇グラウンドゴルフ大会 5月22日
- ◇湘南Bブロック会長研修会 6月27日
- ◇友愛部会全体会 6月28日
- ◇湘南Bブロックゆめクラブ大学 7月17日
- ◇湘南ブロック友愛研修会 7月26日
- ◇藤沢市高齢者スポーツ大会 10月11日
- ◇湘南ブロックグラウンドゴルフ大会 11月7日
- ◇趣味展 11月5日～11月10日
- ◇賀詞交歓会 1月22日
- ◇友愛部会研修会 2月5日
- ◇地域活動見本市 2月15日
- ◇介護予防事業 2月12日（湘南台市民センター）。2月27日（秩父宮記念体育館）
- ◇クラブ会長研修会 3月12日

(10) 藤沢市地域公益事業推進法人協議会事務局

社会福祉法人が連携して「地域の公益的な取り組み」を進めるための事務局を担当した。（別掲）

(11) 藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会事務局

第4次地域福祉活動計画を推進するための連絡会事務局を担当した。（別掲）